

断水回避のために全力あげて!

渇水対策、農政建設常任委で真剣な議論

農政建設常任委員協議会が28日、開催されました。テーマは水道水の渇水対策です。

最初に、ガス水道局から正善寺ダムの貯水量などの状況、これまでの主な取組について説明がありました。

15日に上越市ガス水道局渇水対策本部、25日には上越市渇水対策統括本部を設置して、25日に国・県に緊急要望をしたほか、柿崎・深谷・板倉区山越浄水場の配水エリアなどの拡大、給水スポット設置などを行いました。このほか、綱子川から正善寺ダムへの

お放流を県に要請したり、農業用水等水利使用者との協議にも入ったりしています。

ガス水道局では、引き続き、原水確保、正善寺ダムの貯水量低下の抑制に努め、断水回避に全力を尽くすと同時に、正善寺ダムの貯水量を見極め、断水になることを想定した取組も行うとのこと。断水になれば生活は大変不自由にな

ります。あらゆる手を尽くして断水を回避してほしいものです。

委員協議会では、こうした説明を受け、「断水のXデーはいつごろと予想しているか」「国、県への要請は手ぬるいのではないか」「断水になった時のマニュアルはあるのか」「たまには節水区域外の温浴施設に入りたいという要望がある。(無料サービスの) 検討はできないか」「断水してはならないという前提で、城山・正善寺周辺の地下水を使って対応してほしい」などの声が相次ぎました。

ガス水道局は、「貯水量を見極めて、断水になる場合の準備をしている。柿崎などの配水エリアの拡大など可能な限りやっていく」「断水になった時の影響が市民生活や会社などに出るので、それぞれの部局で対応を進めている」「断水時のマニュアルは手順、応急給水などの検討を進めている」「温浴施設の利用は統括本部会議でも話が出て検討中だ」など



と答えていました。

温浴施設は31日から無料開放

節水区域住民を対象にした温浴施設の無料開放が31日から始まりました。対象施設はくるみ家族園、雪だるま温泉、深山荘、人魚館、吉川ゆったりの郷、吉川の遊ランド、やすらぎ荘、うみてらす名立、門前の湯です。

これは関係者から強く要望が出ていて、日本共産党議員団もネットや農政建設常任委員協議会でとりあげていました。



すでに枯死した稲も…市議団と馬場県議で調査

日本共産党上越市議団と馬場秀幸県議は27日、干ばつ被害の出ている田んぼの調査をしました。場所は吉川区川谷地区と浦川原区月影地区です。

猛暑日が続く中で、田んぼのひび割れや稲の葉が枯れて、黄色くなっているものなどが出て

きています。被災農家からは、「ポンプやホースへの補助はありがたいが、支援対象基準額が実情に合っていないケースもある。ぜひ見直してほしい」などの声も出ており、こうした声は担当課に伝えています。意見、提案、要望などがありましたら、遠慮なくお寄せ下さい。



三和区のコウノトリのヒナが28日に巣立ったことを確認したとのこと。巣立ったとはいえ、しばらく巣を使います。写真は母親が巣に戻るところ。30日撮影。



このイラストは浦川原区でのものです。

【カラスザンショウ】
ミカン科の落葉高木。漢字で「烏山椒」と書きます。高さは15mほどで、木の姿は傘のようで美しい。格好が良い木だったので、ずっと気になっていました。花期は7月から8月。緑白色の小さな花を密につけます。蜂も気に入っていて、たくさん集まります。花言葉は「健康」「好意」「魅惑」など。柿崎区桜町にて26日、撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2214 2025.8.3

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八六一回

水切り

孫が帰ってくるという知らせを聞いてからは、小中学校の時の修学旅行に行く前と同じ気分です。帰省する日をずっと待ち続けました。

自分の子ども夫婦と孫が遠くに住んでいれば、誰でも同じ気持ちになると思いますが。ただ、今回は、私のこの気持ちが一段と強くなっていました。その理由は連れ合いから「リョウ君、こっちに来たら、水切りしたいんだって……」という言葉聞いていたからです。

「水切り」というのは、池や川で水面すれすれに石を投げ、何回もジャンプさせる遊びのことを言います。私は子どもの頃、尾神にあった「ヨドの池」でこの遊びを何度もしていました。

この池には石がたくさんあったわけではないので、場合によっては岩などを使っていたかもしれません。どうあれ、石や岩を水面で四回、五回とジャンプさせたときは最高の気分でした。その記憶は鮮明でしたので、リョウ君にはその「最高の気分」を味わってほしいと思いました。

その日から、リョウ君がやってきたら、どこで水切りをさせてあげようか考えました。最初は代石の池です。でも、あそこは水面すれすれに石を投げる場所がありません。それによそから石を持ち込んで池に投げるとなると、「余計なものを投げ入れる」罪悪感が働きます。それで、吉川橋の近くで水切りができそうな場所を探しました。湯水で川の水は「流れ」というよりは「水溜まり」という感じになっていて、「水溜まり」がいくつもできていました。特に吉川橋のすぐ下の「水溜まり」の面積が広くて良さそうでした。「よし、これからヨドの池と同じことができる」とそう確信しました。

リョウ君が両親とともにわが家に来て来たのは日曜日の午前九時半過ぎでした。

仏壇にお参りしてから、一緒にお茶を飲んでひと休みしました。少したって、「よし、水切りをやりに行くか」とリョウ君を誘うと、首を縦に振ってくれました。

この日は猛烈に暑い日。リョウ君と次男の連れ合いは日傘をさして吉川橋を渡りました。橋の欄干から見下ろした時は、大滝商事の側から川の土手を下り、川の「水溜まり」に簡単に行けると思っていました。が、そばまで行って足が止まってしまいました。土手から川の中に下りる場所の高低差が一桁前後あったのです。

川にどう下りるか、それが問題だ。「まずはオレが下りよう」、そう思って小さな柳の木の枝をつかみながら左足を下ろした途端、ガサツという音を立てて、砂利と砂が溜まっている場所に滑り落ちてしまいました。

誰かが、「お父さん、大丈夫？」という声を発しました。一瞬、腕や足をやってしまったかなと思ったのですが、幸運にもどこも痛くありません。ズボンに泥がついただけでした。

でも、このハプニングで、リョウ君が川に下りないことが決定的になってしまいました。次男だと思えますが、「無理だね」という声がありました。それでなくても短靴姿では難しいかなと思っていたのです。

ならば、しょうがない。せめて水切りのやり方だけでもしっかり見てもらおう。そう思って平べったい石を探し、下流の「水溜まり」に向かって石を投げました。三回ほど投げましたが、このうち石が一番多くジャンプしたケースで三回でした。やはり、「水溜り」にかなりの長さがないと五回、六回は無理のようです。

カッコいいところは見せられませんが、リョウ君に、「どうだ、やり方、わかったか」と訊くとうなずいています。おじいちゃんもホッとしました。

松代病院は命を守る砦、診療所にさせてはならない

「県立松代病院を守る会」(準備会)主催の講演会に参加してきました。会場は松代公民館、150人近い人たちが参加しました。

講演は竹島良子さん、元長岡赤十字病院看護師長、元県議会議員です。竹島さんは、「松代病院の診療所化とは?住民の視点で考えましょう」というタイトルで話されました。

竹島さんは講演の中で、①住民の「医療へのアクセス」は基本的人権であること、②県は、採算優先で県立病院を切り捨てるのではなく、「県立病院経営強化プラン」で示した県立病院の役割・機能をそそ発展させるべきだ、③国の医療費抑制政策からの転換なくして住民の健康や命は守れない。自治体と一緒に国を動かす運動にしよう、といった3点を強調しました。

続いて松代病院の診療所化について、①新潟県の入院需要は、県



の説明資料を見ても減らない。2013年を100として2030年まで急性期・回復期は増え続ける。病床は減らさなくていい。②脆弱な医療体制の十日町津南地域で体制を縮小していいのか。津南地域は医師も診療所も病院のベッド数も日本一少ない地域。感染が流行ればあっという間に医療は崩壊してしまう。③患者が県外流出している実態こそ改善すべきだ。④十日町病院のみで急性期から慢性期まですべて対応できるか疑問だ、とのべました。その通りだと思いました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月23日(水)	7月30日(水)
上越消防署	0.053	0.057
上越南消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.057	0.067
東頸消防署	0.053	0.053
名立分遣所	0.057	0.063
高士分遣所	0.050	0.047